

## 令和5年度 府中明郷学園 教育研究推進計画

## 1 学校教育目標

自主・協働・創造

～社会に開かれた教育課程の推進により、自ら課題を見つけ、学び、行動する児童生徒の育成～

## 【目指す児童生徒像】

怨の心を持ち、夢と志を抱き、自らを鍛え互いを鍛える児童生徒

※人の心を自分の心の如（ごと）く思いやる

## 2 研究主題

「未来を創る力」を育む学びの創造

～自ら考え、伝え合い、深め合う学習活動を通して～

## 3 研究主題について

グローバル化の進展，人工知能の飛躍的な進化，生産年齢人口の減少により，社会構造や雇用環境が大きく変化しており，予測困難な時代となっている。激動する現代社会においては，様々な情報を見極めて課題を発見し，その解決に向けて異なる多様な他者と協働して力を合わせながら，それぞれの状況に応じて最適な解決方法を探り出していく力をもった人材が求められている。また，様々な知識や情報を活用・統合しながら自分の考えを形成したり，新しいアイデアを創造したりする力をもった人材が求められている。すなわち，他者と協働しながら，よりよい社会を創るために新しい価値を創造し，次世代までも視野に入れた社会貢献の意識をもった児童生徒の育成が求められている。また，新しい時代を切り拓いていくためには，学校が社会や世界と接点を持ちつつ，多様な人々とつながりを保ちながら学ぶことのできる，社会に開かれた教育課程が重要となる。そして学力＝「未来を創る力」の基礎と捉えると，児童生徒が主体的・協働的に学びの地図を描き広げ歩いていくことは，深い学びそのものであると考えた。

昨年までに，身に付けたい資質・能力を児童生徒と教職員で明らかにし，共有化した。さらにその資質・能力が身に付いたかどうかを振り返り，その根拠を考えることで，学びを自覚できるような授業づくりに取り組んだ結果，学びにつながりが生まれ，学びに向かう力も高まってきた。しかし，資質・能力の常套的な振り返りや学力の定着と向上については課題があり，中でも，自ら必要な情報を収集・分析し，よりよい解を見いだす力については，自らの能力が高まっていると評価している児童生徒の割合が例年低くなっている。

この課題を解決するため，自ら考え，伝え合い，深め合う活動を通して，従来取り組んできた資質・能力を精選し，児童生徒の意思の下，自覚的，目的的に学びを進めることで，定着と向上を目指す。そのために，本校の特色を生かした地域や産業界との連携による「キャリア教育の充実」と「専門性の高い教科指導（※教科担任制の導入）や深い教材研究による授業づくり」によるさらなる教育の質の向上を図る。「キャリア教育の充実」では，生活科及び総合的な学習の時間を中心として取り組み，育成を目指す資質能力として評価する。「授業づくり」では，学習内容の理解度・定着度の向上のための「問いの3つの階層で推進する」※広島県教育資料 授業改善を進める。各教科のコンテンツ（知識）ベースの「知識伝達型」ではなく，コンピテンシー（能力）ベースの「主体的な学び」へ転換した研究を進める。これらの取り組みは，学力＝「未来を創る力」の基礎を養い，児童生徒の主体的・協働的に深い学びをさらに促進すると考える。

#### 4 研究仮説

児童生徒が自ら考え、伝え合い、深め合う学習活動に取り組めば、学力の定着と向上につながるだろう。

#### 5 本校で身に付けたい資質・能力

昨年度までの8つの資質・能力を，4つに精選し振り返りの視点とする。

項目	目指す資質・能力
①	他者（ひと）とうまくやっていく力（オレンジ）
②	自己（じぶん）を磨く力（ピンク）
③	課題（かべ）を乗り越える力（青色）
④	未来（さき）へつなげる力（黄緑色）

※本校で身に付けたい資質・能力について年度初めに  
 ①特に，昨年度の児童生徒アンケートから高めたい力を設定する。  
 ②文言で整理し，具体的な目標として児童生徒と共有化を図る。

#### 6 研究の内容

##### (1) 学力の定着と向上を目指す授業づくり

問いの3つの階層で推進する授業改善に取り組み，資質・能力を育成する。

##### ① 本質的な問いによる授業改善

###### ア 単元開発の3つの視点

##### ① 主体的な学びの充実

- ・見通しを持って粘り強く取り組み，自らの学習活動を振り返って学びの過程を充実させ，確かな学力を育成していく。
- ・**単元を貫く問い**※広島県教育資料を設定し，単元を通して見取る評価規準を作成する。
- ・市学校一斉学力調査，全国学力・学習状況調査及びプレテスト等を踏まえ，児童生徒のつまづきを把握し，**個別の問い**※広島県教育資料を引き出した授業づくりを行う。導入の工夫，課題設定の工夫を行うことで，児童生徒が学習意欲を持続し自ら課題解決に迫る授業づくりを行う。

##### ② 協働的な学びの充実

- ・思考ツール等を活用して学びを可視化し，他者との関わりや外界との相互作用を通じて，自らの考えを広げ深める学びの過程を具現していく。

##### ③ 学びの自覚化

- ・自らの**学習活動を振り返り**，**言葉で書く**ことによって，学んだことを自ら意味付けたり価値付けたりできるようにしていく。

【振り返りの視点】と=友達 り=理由 わ=わかったこと か=活用 も=もっと

① 友達の考えから学んだこと

② 学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由

③ わかったこと

④ ふだんの生活に生かすこと

⑤ もっと考えてみたいこと、もっと調べてみたいこと、もっと工夫してみたいこと

- ・振り返りの視点は「と・り・わ・か・も」にとどまらず，新しい振り返りの視点を児童生徒自らが見出し，学びの意味付けや価値付けをしている。

##### イ 教材解釈・教材研究

- ・身に付けさせたい力を基に、授業者自身が教材を丁寧に分析する。
- ・校内授業研究会の事前研修の際、教材をどう捉え、解釈しているのか共有する。

ウ C評価の児童生徒への支援

- ・レディネステスト等から現状を把握し、誰もが学びに向かうよう発問を工夫する。
- ・配慮が必要な児童生徒への具体的な手立てや支援を行う。

② 情報活用力とコミュニケーション力を身に付けるためのグループ活動

ア ICTの活用

Chromebookを自己表現のツールとして活用する。ロイロノート内の思考ツールを活用する等、情報や自分と他者との考えを整理し、アウトプットする活動も考えられる。

イ 生活班と教科学習班の連動（特に後期課程）

- ・定期的な班替えて、生活班と学習班の動きがリンクするようにする。
- ・発言できない児童・生徒が、自信をもって発言できるようにする。

③ 自己の学びを振り返る場の推進

ア 各教科における授業の振り返り

各教科振り返りシート及び授業ノートを用いた振り返りを行う。単元を通して、自らの学びの振り返りを行う。（本校の振り返りの視点【と・り・わ・か・も】）

イ 道徳ノートの活用

道徳ノートに中心発問とその時間の振り返りを書き、自分が以前書いたことを読み返し、考え方（道徳的価値）の変容に気づかせる。

ウ 学びの時間の確保

- ・授業後の感想や毎日の振り返りを「学びのカード」としてロイロノートに記入し、学びを蓄積させていく。その際も、振り返りの視点【と・り・わ・か・も】を意識させ、入力させる。ロイロノートの活用により、児童生徒同士の意見共有の場を確保しやすくする。（ただし、1・2年生には簡単な「資質能力のシート」を動かしたり、手書きで「学びのカード」を書かせたりすることから実施し、実態に応じてロイロノートへの記入に挑戦する。）
- ・毎月末、作文シートやワークシートを年間通して綴り、児童生徒が内省的に自己の学びを振り返ることで、自らの学びを自覚していく。

④ 基礎学力の育成（表現を支える語彙・語句を増やす指導）

ア 朝読書・朝学習（8:20-8:25を朝の会とし、8:25-8:35の10分間を朝読書・朝学習とする）

※後期は、chromebookを片付ける。

※9年生はセミナー学習（2月末から8年生もセミナー学習）

イ 朝の会

「学びのカード」に資質能力の項目を個人またはクラスで決める。

ウ 帰りの会

- ・「学びのカード」に記入する。

・文章読解 ・読書 ・ひらがな、カタカナ、漢字の書き取り ・意味調べ（国語辞書）、漢字調べ（漢和辞典） ・ことわざ、慣用句、俳句等の暗唱や音読 ・音読 ・計算問題・読解など

エ ぐんぐんタイム

帰りの会終了後、下校時間まで行う。

- ・前期：①学びのカードの記入 ②国語・算数を中心とした学習
- ・7・8年：①学びのカードの記入 ②各教科の基礎学力向上のための学習orタブレットドリル

・文章読解 ・読書 ・漢字の書き取り ・意味調べ ・ことわざ、慣用句、俳句、古典等の暗唱や音読 ・音読 ・計算問題・英単語、英文法など

- ・9年：①学びのカードの記入 ②セミナー学習orタブレットドリル

※ぐんぐんタイムの目安時間（分）

学年	月	火 <small>委員会・サポート活動の際は無し</small>	水	木	金
1年	15		15		15
2年	15		15		30
3年	25		25		15
4年	25		25		30
5年	10	15	10		10
6年	10	15	10		10
7年	10	15	10		10
8年	10	15	10		10
9年	10	15	10		10

**5-6時間目終了後の流れ：休憩→学びのカード→各学年の学習→帰りの準備・会**

※後期課程…連絡帳

## (2) キャリア教育の充実のための生活科・総合的な学習の時間の実施

社会に開かれた教育課程の実現及び「未来を創る力」の育成を目指して、生活科・総合的な学習の時間を工夫する。

### ① 9年間を見通した単元開発のポイント

- ア 生活科・総合的な学習の時間を中心に教科等横断的で、より探究的な学習となること
- イ 「課題発見・解決学習」の6つの学習過程（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・創造・表現、実行、振り返り）を位置付けること
- ウ 地域と協働し、地域に貢献・参画する学習活動を取り入れること
- エ 本校が設定した資質・能力の育成を図り、資質・能力そのものを考えさせる活動を取り入れること

### ② 単元における育成したい資質・能力の手立てと評価

生活科・総合的な学習の時間において、資質・能力を評価の観点に位置付け、評価規準を明文化し評価する。

## (3) 教科担任制

授業の質の向上と学習内容の理解度・定着度を向上、また、前期・後期課程の円滑な接続を目指して教科担任制を導入する。

- ・前期課程の専科教諭の配置
- ・前期課程における後期課程教員による教科担任制の導入

## 7 検証の視点

- (1) 令和5年度全国学力・学習状況調査（4月）の実施と推移、市学校一斉学力調査の実施（年2回）  
（目標値：正答率30%未満が15%）

(2) 本校で育成したい資質・能力のアンケート調査の実施と推移(7月・12月・2月)

(目標値: 肯定的評価の割合が80%)

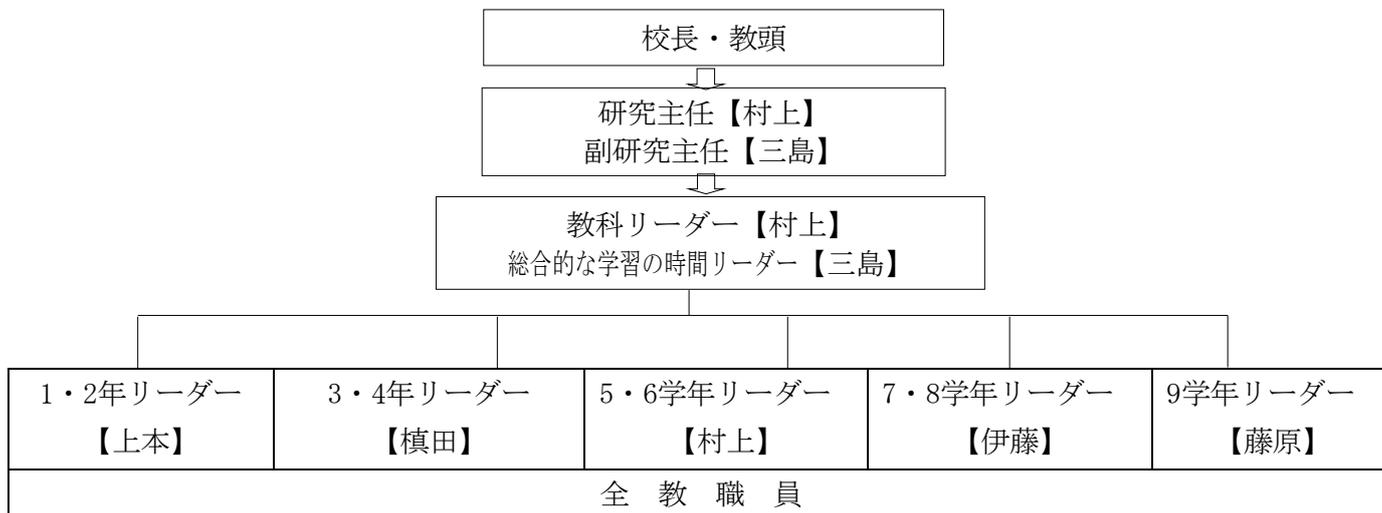
(3) 授業観察者の評価シート調査の実施と推移(授業研究・研修の月)

(目標値: 肯定的評価の割合が75%)

## 8 研究組織体制

(1) 校長・教頭・教育研究部を中心とした計画的な授業研究

(2) 教科リーダー, キャリア教育リーダーを設置した研究体制の強化



## 9 研修について

(1) 授業モデルの構築 (別紙)

〈授業モデルの原理・原則〉 個と集団の有機的な関連を図り, 自己内対話を促す。

- ① 一人一人が, 自分事として教材・題材に向き合い, 自分の考えを持つ (個の視点)
- ② 自分の考えをもって学び合いに参加する (集団の視点)
- ③ 自分の考えを他者の考えと比較, 関係付け, 統合などしながら練り直す (集団の視点)
- ④ 練り直した考え (新たな価値) で, 教材・題材と向き直し, 学びを深める (個の視点)

(2) 研修の進め方

- ・全体研修は, 各教科・総合的な学習の時間・学級活動(ライフスキル)の授業研究を通して各課程1本ずつ行う。
- ・授業研修では, 事前研修・模擬授業・事後研修を通して, 教職員の学びを深める。
- ・授業研修後は, 研修での学びを日々の授業に生かす。

## 10 授業研究について

授業研究・研修に対する共通理解を深める。(各課程1本ずつ公開する。)

- |             |           |        |           |            |
|-------------|-----------|--------|-----------|------------|
| (1) 第1回授業研究 | 5月16日(木)  | 前期課程6年 | ライフスキル⑤授業 | ⑥理論研修      |
| (2) 第2回授業研究 | 6月1日(木)   | 後期課程9年 | キャリア後期    |            |
| (3) 第3回授業研究 | 7月6日(木)   | 前期課程2年 | 後期課程7年    |            |
| (4) 第4回授業研究 | 9月14日(木)  | 前期課程3年 | 後期課程8年    | ことば探究科(前後) |
| (5) 第5回授業研究 | 10月5日(木)  | 前期課程1年 | キャリア前期    |            |
| (6) 第6回授業研究 | 11月31日(木) | 前期課程5年 |           |            |
| (7) 第7回授業研究 | 2月1日(木)   | 前期課程4年 |           |            |

・全体授業研究ではない前期・後期課程校内授業研修においても、前期・後期の枠を超えて授業研修に参加できるよう、授業研究は原則として部活動休業日に設定し、授業づくり・授業改善に生かす。

## 11 9年間教育の取組

(1) 前・後期課程9年間を見通した、一貫性のある指導になるよう工夫・改善を行う。

前期課程における後期課程教員による教科担任制の導入

(2) 府中明郷学園9年間教育大綱の進捗状況の把握と改善策を考え、指導に活かす。

学校評価システムを活用した指導方法の工夫改善に係る、学校評価についての基本的な考え方や、9年間教育を推進していく上での評価の在り方と具体的な展開等についての研修を、講師等を招聘して実施する。また、外部評価により、教職員と地域住民・保護者が現状と課題について共通理解を持ち、協力することにより教育活動や学校運営の改善を適切に行うことができるようにする。さらに、児童生徒・教職員・保護者が、実践の過程や成果（結果）の価値に気付く力を高め、それらを共有するようになっていく。

(3) 児童生徒・地域の人材による異年齢集団の学習活動を実施する。

明郷タイム、学園体育祭、学園文化祭、学園駅伝大会など

(4) キャリア教育やライフスキル教育の理念を取り入れた授業・行事等を実施する。

(5) 家庭学習ノートの取組を継続・深化する。

# 府中明郷学園 授業スタイル

		自己との対話	他者との関わり	教師	その他
つかむ・見通し(5分)	つかむ	学習の確認 (「めあて」に統一)		「今日は何をしますか。」 「今日のめあては～です。」 ・めあてはノートに書かせ、赤で囲ませる。板書もめあては赤で囲む。 ・めあては疑問形で示す。	・児童生徒が学習に興味・関心・疑問をもつよう、既習事項や経験との「ずれ」を感じさせながら、学習への必要性を生み出す。
	見通し	学習の予測		「できそうですか。」 「どのようにやりますか。」 ・1時間の学習の見通しを確認する(原則)。 教科担任で準備する。	・課題を解決するためには、何をしなければならないか考えさせ、単元の見通しをもたせる。
学び合い(35分)	自力解決・個人思考	思考の可視化 考えが見えるようにする。		・席巻表で思考を見取る。 ・(支援を要する児童生徒へ) ヒントカードを提示する。 ・課題が終わった児童生徒に対する次の指示を出す。	思考ツールについて、次のフォルダを参照し、各教科等で活用してください。  学園全体04【教育研究】★☆思考ツール★☆
	集団解決・集団思考	思考の操作化 思考ツール 矢印 囲み 板書等 考えをつなげたりまとめたりする。	・話型を使う。(別紙) 児童生徒の思考(例) 疑問(ふしぎ) 納得(なるほど) 共感(そうそう) 驚き(おやおや) 推理(こうかも) 創意工夫・発想(こうしたらどうか) 「分かってきたぞ。」 「発言しようかな。」 「間違っていたらどうしよう。」 「間違ってもいいじゃないか。」	・他人の考えを知る。 ・自分と他人の考えを関係付ける。 ・3ポイント発言を仕組む。(①つなぐ②結論③理由) ・考えが広がる、深まる、まとまる、つながる、まとまる、新しい考えに気づく、考えのよさに気付く、などが見えてくる。 「同じものを集めよう。」 「順位を付けよう。」 「考えをつなげよう。」 「考えを整理しよう。」	・学び合いの状況を捉え、状況に応じて適切に関わる見守る 言動を理解する 着目する 助言する 賞賛する 価値付ける 意味付ける 手を貸す 等 ・思考が整理された構造的な板書を創る。
まとめ・振り返り(5分)	まとめ	内容や方法の整理や確認 学んだことを整理・確認させる。	・全員で整理・確認する。 ・黒板のキーワードを使って文章でまとめる。	「まとめましょう。」 ・めあての主語とまとめの主語を合わせ、ノートに書かせる。 ・次時の予告をする	
	(適応問題)	適応問題	「よし、チャレンジだ。」	「今日の勉強を使って、こんな問題できるかな。」 ・適応問題で評価する。	・身につけたことを学習や生活に生かすため、考えを広げたり、深めたりする適応問題に取り組む。
	振り返り	各自の学びの捉え直し どのような意味や価値があったかを自覚させる。	「できるようになってうれしい。」 「自分が変わってうれしい。」  【振り返りの視点】と=友達り=理由 わ=わかったこと か=活用 も=もっと ①友達の考えから学んだこと ②学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由 ③わかったこと ④ふだんの生活に生かすこと ⑤もっと考えてみたいこと、もっと調べてみたいこと、もっと工夫してみたいこと (基礎・基本学力学習状況調査のアンケート調査から) (当初は教員選択、後に子どもも主体へ) (1単元で5項目含む)	「振り返りましょう。」 ・振り返りの視点を提示し、振り返りをさせる。 ・係に振り返りを言わせる。	・この考えを使って次の時間は… ・今度はこれ(知識・技能等)を活かしてやってみよう。